令和6年度学校総合評価

今年度の重点目標に対する総合評価

GIGA スクール構想の下で生み出されてきた多様な教育実践の工夫を取り入れることにより、いわば新しい学びの在り方へと進化を図っていくことが重要との視点に立ち、学校アクションプランの各重点項目及び重点課題の達成目標を設定した。

スクールポリシーの理解と学習面でのポリシー実現、スマホ依存の防止と自己管理能力の育成及び環境 美化、新課程入試に向けた情報収集と適切な指導、部活動と学業を両立し困難に負けない人間性を育む、 資格取得の充実と推進、PTA活動の活性化、等々を掲げて目標の達成に努めてきたところ、各項目において取組状況における効果の差はあるものの、概ね評価はA・Bであった。

学校評議員からは、本校の教育活動に関し、忌憚のないご意見をいただくことができた。生徒の自律心が向上するための具体的な対策を提示してほしい。スマートフォンやSNSを有用なツールとして活用していくために、表裏にある危険を理解することが重要である。本校OBによる、就職希望者や進学希望者への実体験に基づく講習・懇談の機会を設けてほしい。部活動等の特別活動に積極的生徒が学業においても優秀であることが多いため、そのような生徒を増やしてほしい。コロナ禍後、初のフルスペックでの学園祭の成功は何よりである。水産学会での発表や、豊かな海づくり大会での受賞など、外部での評価は生徒たちの励みと誇りになる。安心安全メールでほぼすべての保護者の登録が進んだことで、こまめな情報発信により保護者の協力を得られるように取り組んでほしい。など、学校に対し中・長期ビジョンに立った総括的本校の在り方についての示唆をいただいた。

次年度へ向けての課題と方策

生徒目標「髙きを求める情熱」のもと、「文武両道」を目指し学習と部活動の両立に努めるとともに、 県東部を代表する総合高校として、普通科の進路意識向上を目指した特色化と、薬業科・商業科・海洋科 における専門性の伝統と進化を追求し、興味あふれる高校像を広く地域に発信し、いかに中学生を魅了で きるかを模索していきたい。全般に、目標とする数値について、新たな分析方法を取り入れ、指導に役立 つよう工夫する。学校評議員からのアドバイスをもとに、本校のあるべき新しい在り方への進化を図って いくことの具現化を検討し、推し進めていきたい。

学校アクションプラン

1学習活動 2学校生活 3進路支援 4特別活動 5 その他 令和6年度 滑川高等学校アクションプランー1-重点項目 |1**|学習活動**(1)学習指導、一部(2)その他を含む 重点課題 スクールポリシーへの理解をより広くし、学習面でポリシー実現を目指す ・教務規程に沿った校務支援システムの運用体制が整備されたが、引き続き入力や点検の ための業務負担が大きい。 現 状 「新しい学び」が定着し始めている。学習の振り返りや面接時間の確保が課題である。 ・前向きな学び調査では、自律心を持てていないと感じる生徒が多いことが数値で示された ① スクールポリシーの実現が「高きを求┃③学びに向かう力が測れる「前向きな学びアン める情熱」の実現につながる。このこ ケート」を継続する。 とへの理解を増やす。 ④文武両道を目指すも、大会や考査など時期に ② 教職員は、民主的な手続きでポリシー よって調査結果がまばらになっていた。生徒の が決定されていることを知っている。 実態を捉えてはいるもののより向上するため 達成目標 教育活動にもポリシーの一側面が見え の方策がないか検討する。 るようになると良い。 ①詳細が書かれたルーブリックがある。 ③調査によって得た統計的な数値が、多様な学 れに沿った教育活動がなされていると考 びを推進する本校生徒を表せるものとしたい。 える教員を増やしていく。 また、課題である自律心を育む方法にも言及し たい。 ・学年及び情報部、進路指導部等と連携し学び 互見授業を通じ、グループワークやタブ レットを用いた ICT 教育などの授業展開 に向かう力の向上のための対策を講じる。 を推奨・推進する。 ・学習課題を個々に指導し、精度をいかに高め ・生徒の評価方法や授業のあり方等につい られるか、主体的に学ぶ意欲を高めさせる方 策 方 て情報共有に努める。 法を研究する。 ・昨年度に引き続き、任意の2学級の学業成績 ・年間指導計画の観点別評価に繋がる指導 法を常に工夫する。 で「主体的に学習に取り組む態度」の評価が Cであった科目数、人数を抽出する。 ・ポリシーのうち「学びに向かう力・人間性」 ・11 月に実施した互見授業は、延べ 47 名 (R5 比-25) が参観した。グループワーク を構成する5要素を数値化した。自律心の数 やペアワークなどと組み合わせた授業 値が引き続き低い結果(2.8)になった。 達成度 は54.8% (R5 比+11.2) であった。 ・「主体的に学習に取り組む態度」で1学期に C がついて、2 学期に改善できた科目数の割 ・観点別評価の「AとCが混在するのは好 合はわずか20.3%であった。 ましくない」点で教務部に質問されるケ ースは引き続き多い。 ·C がつく生徒の自律心は低いことが多い。 ・教務部が扱う行事や調査で ICT 化を推進 ・2 学期には表出した問題がさらに深刻になる している。校務支援システムが浸透して など多様なケースが見られる。教員と生徒と 具体的な の関わり方に貢献できるデータを作成する。 きた。 取組状況 ・学校訪問(10月)を経て、授業改善への機 ・学習指導面では、改善できる余地はあると考 えている。 運が高まった。 グループワークなどを取り入れた授 ・学習の諸活動は、スクールポリシーの実 業改善は生徒の自律を育む。 ・タブレットを使用する学習は定着し 現を目指すものである。生徒の自律心向上 評 価 への取り組みは道半ばと考えられる。 ている。 ・概ね取組みの効果が表れている。 ・自律心を向上させることが一番の課題と思慮 学校評議員 する。 の意見 ・自律心の醸成に一層の務めていただきたい。 ・授業改善への研究修養 ・教務部では背後にある学びに向かう力の向上 ・ICT 化の推進 次年度へ向 を目指す。 ・学習評価の考え方の定着 ・生徒の行動変容が期待できる学習活動や指導 けての課題 法への提言を進める

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)

1学習活動 2学校生活 3進路支援 4特別活動 5その他 令和6年度 滑川高等学校アクションプラン-2-2学校生活 重点項目 (6)生徒指導(7)保健指導 重点課題 ・スマホ依存の防止と自己管理能力の育成 •環境美化 ・スマートフォン等の長時間の利用による生活習慣や学習習慣が乱れている生徒が多くみ られる。また安易に SNS で写真や動画を挙げるなど個人情報の取り扱いや不適切な書き込 現 状 みなど、利用マナーやモラルの欠如がみられる。 ・環境整備に取り組む姿勢は全体的には良くなっているが、清掃開始が遅れたり、清掃活動 に積極的に参加できない生徒もみられる。 ①スマートフォン等の使用に関する自己管 ・環境美化委員を中心とした環境整備、美化活 理能力の育成とネット上のルールやマナ 動を習慣化するための自主的な活動を図る。 一の徹底を図る。また利用に潜む危険性に ついての認識を高めるとともに、危険回避 達成目標 能力の向上を図る。 ②スマートフォン等の利用の際に危険性を • 年間 8 回 認識しながら利用している生徒の割合 (各学期の美化週間、6月の中庭花植え、7月、 8月の除草や水遣り、夏季、冬季の長期休業中 80%以上 の部活動におけるトイレ・更衣室の掃除など) ・美化週間を学期に 1 回設定し、環境美化委 ・生徒への注意喚起を行うとともに、風紀 委員や生徒会による使用のルール作りな 員を中心として、外清掃を含む清掃活動の ど自発的な活動により意識づけを行う。 強化を図る。 適切な利用について保護者と連携して、 日常的に清掃を中心とした環境美化におい 方 策 家庭でのルールづくりを徹底させる。 て全教職員でさらに粘り強く指導する。 ・講習会や研修会等を開催し、ネットに関 ・花壇や中庭などの整備を行うことにより、 かわるトラブルの発生を未然に防ぐ。 情操教育の一助とする。 ・環境美化委員を中心に、環境整備、美化活動 ・携帯電話に関する違反の件数、授業中の 違反7件(昨年度8件)、授業以外での に関わる自主的な活動を行えた。 違反13件(昨年度13件) ・美化週間については、例年と行い方を変え、 環境美化委員が主体的に活動できるように ・スマートフォンの危険性について82. 工夫した結果、活動が活性化した。 1%の生徒が様々な機会から知識を得て ・清掃活動は、全教職員が丁寧に指導すること 達成度 いるが、実際に高額請求やネットトラブ で、生徒の美化意識も高まったと感じる。 ルを経験している生徒も30%程度い ・中庭の花植えについては、6月に環境美化委 員で除草後、植栽を行った。水やり当番を回 講習会の実施と生徒指導通信の定期的な し、11月まで花を咲かせることが出来た。 発行や警察等からのチラシなどの配布を ・美化週間において、各教室に周知のためのポ ・携帯電話の適切な使用について、講習会 を行ったり、学年集会や教室等で繰り返 スターを掲示したり、チェック方法を変えた り、コメント欄を設けたりと、美化意識を高 し指導を行ったりした。使用について教 めるために工夫した。 職員間で共通理解を図り、昼休みの校内 ・9月の滑高祭に向けて、環境美化委員が中心 巡視や学校内での指導を多く行い徹底を となって花壇・中庭の整備や、校舎内のゴミ 具体的な 図った。 拾い、ペットボトルや空き缶の分別など、環 全校生徒に実施したアンケートからホー 取組状況 境整備活動に積極的に取り組んだ。 ムルーム等において、家庭でのスマート ・12月の学校保健委員会のテーマを「スマホ利 フォンの使用についてのルール決めやフ 用と目の健康への影響」とし、保健委員が中 ィルタリング設定を行うよう指導を行っ 心となって、目を大事にする行動を習慣化す た。「生徒指導通信」や各学期の休業中 る重要性について共通理解を図った。 の生活に関するしおり等を利用して、生

徒への注意喚起を図った。

評 価	・携帯電話の使用違反件数は、昨年度とほとんど変わりはない。特に新入生に関してルールの確認や意識付けを図り、違反件数を減少させる必要がある。 B ・スマートフォンの危険性についての知識はあるが、危険な場面に遭遇しそうになったり実際にトラブルに巻き込まれたりしたケースもある。今後も継続して指導を行う必要がある。
学校評議員 の意見	・スマートフォンを介しての犯罪や事件に巻き込まれないように、新入生向けの教育、講習の実施を要望する。・環境美化委員の活動については、今後も自主的な活動が出来る様に指導されたい。
次年度へ向けての課題	 ・講習会などを通してスマートフォンの使用について、ルールやマナーを遵守するように意識を高める。 ・学校と家庭が連携し、スマートフォンの使用について個人や家庭でルールを決めたり、設定を変更したりするなど共通理解を図りながら指導を行う。 ・トラブルを未然に防ぐための使用方法や実際にトラブルに巻き込まれたときの、対処法や相談先など理解させる。 ・感染症予防対策として、換気や手洗い等基本的な予防対策を指導し、蔓延防止の徹底を図る。 ・清掃活動やゴミの分別の指導を強化し、環境美化の更なる徹底と落ち着いた雰囲気のある学習環境の向上を図る。 ・環境美化委員や保健委員が主体的な活動ができるように指導・支援をする。 準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)

1学習活動 2学校生活 3進路支援 4特別活動 5その他

1	1 学習活動 2 学校生活 3 進路支援 4 特別活動 5 その他
	令和6年度 滑川高等学校アクションプランー3-
重点項目	3 進路支援 (4)進路指導
重点課題	・進路目標の早期設定と進路実現に向けた支援・新課程入試に向けた情報収集と適切な指導
現状	・具体的な進路目標を定める時期が遅いため、実現に向けて取り組む時間が十分確保できない生徒が多い。・進路目標達成のために、今何をするべきかを考え、見通しをもって実践できる生徒が少ない。・令和7年度入試より導入される「情報」に対して不安がある生徒が多い。
達成目標	 ① 2年生の3学期までに具体的な志望校、志望学部・学科を決める生徒の割合 ② 第1志望大学への合格率(3年9月志望) ③ 新課程入試における生徒への情報提供と適切な指導 ① 70%以上 ② 70%以上 ② 100% ③ 100%
方 策	 ・進路講話や出前授業、研修旅行、大学訪問などの行事を充実させ、進路意識を高める。 ・オープンキャンパスへの積極的参加を促す。 ・校内テストや外部模試の結果を基に自分の学力を把握させ、一層の努力を促す。 ・オープンキャンパスへの積極的参加を促す。 ・オープンキャンパスへの積極的参加を促す。 ・大手予備校からの情報や各種学校説明会で得た情報を教員間で共有し、生徒に適宜伝える。 ・教科補習、個別学習指導、面接指導等を全教員で行う。 ・教科補習、個別学習指導、面接指導等を全教員で行う。 ・就職支援アドバイザーとの連絡を密にし、就職内定のための支援を行う。
達成度	 ① 普通科 86.8% 薬業科 80% 商業科 100% 海洋科 100% 海洋科 100% 海洋科 100% ② 年内入試において 普通科 78.6% 薬業科 94.7% 商業科 91.3% 海洋科 92.9% ③ 「情報」の受験対策においては 80% 他においては概ね達成できた。
具体的な 取組状況	・生徒の学問への興味・関心及び進学意識 ・企業訪問、職場の先輩と語る会など、多くを高めるために、大学訪問や模擬授業を 実施した。 ・生徒の進路実現に向けて、個別指導や補 習授業を行った。 ・会年度も昨年度並みの求人数であり、内定 者全員が希望の職種に内定している。
評 価	① A・今年度はアカデミック・インター ② B④ B・就職希望者については、100%に向け てあと2人となっている。③ C徒が多く、積極的に進路研究を行 う姿が見られた。 ・「情報」は朝学習や補習授業で指 導した。⑤ B・学年、科の枠を越えて、多くの教員 の協力体制のもとで面接、小論文、
学校評議員 の意見	・生徒の可能性は無限大で、小さな世界の中だけの進路ではなく、幅広い職業選択や進路 選択が出来るような材料提供には心掛けていただきたい。
次年度へ向けての課題	・生徒の段階に応じた適切な情報提供と進路指導により、進路目標を具体化させる。 ・「スタディ・サプリ」は次年度で4年目となる。このツールのメリット、デメリットを検証し、活用方法を検討する。 ・建一名・達成した B・ほぼ達成した C・現状のまま D・現状上り悪くなった)

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 現状より悪くなった)

1学習活動 2学校生活 3進路支援 4特別活動 5その他

	1]学習活動 2]学校生活 3]進路支援 4]特別活動 5]その他		
令和6年度 滑川高等学校アクションプランー4-			
重点項目	4 特別活動 (5)特別活動		
重点課題	・生徒会・ホームルーム・部活動において、自主的な活動を促し、リーダーシップを養成する。・ボランティア活動に積極的に参加する。・部活動と学業を両立し、困難に負けない人間性を育む。		
現状	・指示を正格に実行できる生徒が多い反面、自らアイデアを出して行事を遂行する力が少ない。・ボランティア活動への要請が、全生徒に行き渡ってない。・部活動は全員加入制を採用しており、高い目標を持って熱心に取り組む生徒が多い。・学習と部活動の両立を図るための指導の工夫が十分といえない。		
達成目標	① 学校行事やホームルーム、生徒会活動等 ②学習と部活動の両立を目指し、自身を向上さ に役割や責任を持ち、積極的に関わることができたと感じる生徒の割合 せて、部活動の内容や時間、生活リズムを工 大し、充実感を持てた生徒割合・80%以上・80%以上・80%以上		
方 策	 ・各行事において、生徒が主体的に活動できるよう動機付ける。 ・組織や役割分担を明確にすることで、リーダーを育て、互いに支援し合えるように指導する ・生徒議会などを通してクラスの意見を吸い上げる。 ・先を見通した HR 計画、またテーマの設定、事前研究などの準備をすする。 ・ボランティアの要請を積極的に明示する。 ・ボランティアの要請を積極的に明示する。 ・ボランティアの要請を積極的に明示する。 ・ボランティアの要請を積極的に明示する。 ・ボランティアの要請を積極的に明示する。 ・ボランティアの要請を積極的に明示する。 ・生徒会・学級長や部活動代表者を集め携帯電話のマナーや使用について、共通理解を深めるように指導する。 ・担任以外の部活動顧問も面談を行い、高校生活の充実、進路実現、「滑川高校生らしい究極の文武両道」を目指し指導する。 極の文武両道」を目指し指導する。 		
達成度	 生徒アンケートの結果、学校行事に積極的に参加した生徒は「体育大会」が86.7%(昨年86.7%)、「学園祭や芸術鑑賞会」が92.6%(昨年(91.1%)「生徒会・委員会・学級の仕事に積極的に参加した生徒」が84.1%(昨年86.7%)と目標に達した。・「ホームルームでの活動や話し合いに積極的に参加で来た」が76.6%(昨年63.6%)であった。 生徒アンケートの結果、「学習と部活動を両生させるよう努力している」が75.0%で、昨年(81.0%)より下回った。 ・「部活後に速やかに下校できている」が86.1%で、昨年(87.3%)と、やや下回った。 ・「隙間時間を利用して学習している」が77.1%で、昨年(66.7%)より、やや上回った。 		
具体的な取 組状況	 ・ホームルーム運営委員を中心に、工夫の凝らされたホームルーム活動を推進した。 ・学園祭は7年ぶりの開催となり、各企画に工夫が凝らされ、近隣住民、生徒の家族などから好評を得た。 ・体育大会では3年生主体で計画され、リーダーシップの育成に大いにつながった。 ・ボランティア要請を周知し、個人参加に加え、部活動単位でも参加した。 ・学年集会で学年主任から、タイミング良く学習と部活の両立について説話していただいた。 習と部活の両立について説話していただいた。 		
評価	- 学校行事(体育大会・学園祭・芸術鑑賞会)に積極的に参加したと応えられた生徒が85%を超えた。 - リーダーとしての貢献度を感じる生徒の割合は67.4%(昨年51.0%)であった。 - 「ホームルーム活動に積極的に参加で来た」が76.6%(昨年63.6%)		

学校評議員	・文武両道の生徒が増えている事は喜ばしいこと、これからも質の高い学校行事を考案して後の高校生活を活性化するように取り組んでいただきたい。	
の意見	・特別活動での活躍や貢献を生徒評価の対象としていただきたい。	
次年度へ向けての課題	 ・ボランティア活動に参加してみたい生徒が 72.0% (昨年 67.0%) で、昨年を上回り、ボランティア活動参加要請をさらに周知する。 ・多くの生徒がリーダーシップをとれるよう、役割を与え、自信を持たせる。 ・学校行事やホームルーム活動で、さらに生徒の発言を促し、生徒主体の行事にしていく。 ・格部活動で、学習時間を保障する。 ・クラス・学年・学科で、部員の学習・成績について情報共有する。 ・練習後の速やかな帰宅を徹底させる。 ・電車・バス内の通学時間や休み時間などの、隙間時間にも学習することを啓発し、学習のムードを高める。 	

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 現状より悪くなった)

1 学習活動 2 学校生活 3 進路支援 4 特別活動 5 その他

	令和6年度 消	別高等学校アクションプラン-	
重点項目	1 学習活動 3進路支	爰 (8)(9)(10)専門学科指導	
	< 薬 業 科 >	< 商 業 科 >	< 海 洋 科 >
重点課題	資格取得の充実	資格取得(全商)の充実	① 水産関連等の資格・検定 取得の推進② 放課後アクティブラーニングの活 性化
現 状	・資格取得が生徒の学習意欲を引き出している一方で家庭学習が不足している生徒が増えてきている。・部活動と学業の両立を目指している。	なって変更され、難易度も高くなっており、合格者数が心配される。	①各種検定・資格試験の合格 者数が伸び悩んで習時間の不 恒常的に家庭学習時間の不 足が認められる。学力声 に費やす時間や意識が薄れ ている。 ②環境活動発表や魚食振興の ための外部との協働に海洋 クラブが活躍する状況にあ る。
達成目標	①学年ごとの危険物乙種第 4 類取得者、危険物乙種全類 取得者,危険物以外の各種資 格検定に取り組む。 ・危険物乙種第 4 類	数。 ②3 年生は 3 種目以上 1 級取 得者の人数。	①水産関連等の資格・検定取得数の向上をマリンマイスター申請者数で判断する。
	1 学年 70% 2 学年 100% ・危険物乙種全類 3 学年 85% を目指す ・品質管理検定の受検	27 0 70 € L	・申請率 85%、プラチナ・ゴ ールドが申請者の 35%以上 ②昨年と比較し、質(進捗) で比較。
方 策	・危険物乙種全類取得を目指し、学力補充を支援する。 品質管理検定に取り組む。 その他の資格(P検、英検、 漢検など)で基礎学力を充 実させるよう意識付けをする。	し、生徒の主体的学習を促す。 ・ICT の効果的な活用。 ・習熟度別学習を効果的に活用。 ・放課後補習の実施。 ・生徒個々の学習状況を担当者で把握。	の学習を行い、意識の向上 を促す。個別対応を充実さ せる。 ②意欲的な生徒への参加を促 し、社会貢献を兼ねた継続 的な活動を行う。
達成度	危険物取扱者試験は2月に受験を控えており、達成度の最終評価はまだできない。 成できるよう努めたい。 品質管理検定についても3月受験のため最終評価はそ	中 16 名、同原価計算合格 者は 38 名中 23 名。 2 科 目同時合格者は 15 名で 約 40%の合格	/ 「

具体的な 取組状況	補習や個別指導、授業内容との関連づけなどにより、知識の定着を図る。	・放課後補習の実施・個別指導の充実・教員間での問題の分析	①マリンマイスター申請時の 合格換算ポイントの高い漁 業技術検定の受検を勧め た。 ②富山県水産研究所の瀬戸研 究員の指導・助言をいただ き研究「ウマヅラハギの年 齢査定」を進めることがで きた。
評価	B 現段階では最終評価ができないため、見込みの評価になる。	②についてD 県内では、上位に入る結果 だが、当初の目標は達成で きなかった。	C ①マイスター申請者が前年比 5 名(24%)低下した。申請者の半数が漁業技術検定を合格していた。 ②水産学会での優秀発表賞を受賞できたことで、研究の進め方・考え方が評価された。
学校評議員 の意見	・資格取得の意識向上のため、様々な資格が社会に出た時にどのように役立つかを伝える事が重要。	・次年度の合格率向上に向けて、今年度の反省を生かしてください	・日本水産学会や全国豊かな 海づくり大会で受賞できた ことは高く評価できる。
次年度へ向けての課題	年々学習を習慣づけるのが 難しくなっている。声かけや 動機付けの機会を増やす必 要がある。	① 日々の授業の見直し、(生 徒の意欲を引き出すため の授業展開)や2科目の 授業の担当者の連携が少 し不足。 ② アクションプランの目標 達成に対する教員の意識 (生徒への働きかけや動 機付け)が少し足らなか った。	か疑問か残る。海洋科として海洋関連産業が必要とする資格の考察が必要である。マリンマイスター申請者向上のために、漁業技術

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)

1学習活動 2学校生活 3進路支援 4特別活動 5その他

	1 学習活動 2 学校生活 3 進路支援 4 特別活動 5 その他			
令和6年度 滑川高等学校アクションプランー6-				
重点項目	5 その他 (12)地域との連携・協力			
重点課題	PTA活動の活性化			
現 状	・役員会について、第1回74%、第2回68%、第3回57%、第4回32%の参加率であった。 ・PTA 行事への参加者数は、PTA 総会85名(参加率14.7%)、進路研修会16名、生徒と保護者の語る会4名、挨拶運動19名、祭礼巡視11名であった。 ・PTA 役員会やPTA 行事の様子をホームページで発信している。PTA だよりを年3回発行している。			
	・PTA 関連行事への参加率の向上① Web サイトの内容の充実② 情報安全メールの登録増			
達成目標	① 迅速な情報発信と内容の充実 ② 全学年保護者登録 90%以上			
方 策	・案内を早めに配布し、ホームページにもあげる。 ・ホームページに PTA 活動の様子をこまめにアップし、活動への理解・関心を高める。 ・PTA だよりなどを通して、PTA 活動への関心を高め、参加を促す。 ① Web サイトのリニューアルを終えたので、地域及び受験を考える中学生に向けた迅速な情報発信に努める。また部活動の大会結果や日々の活動内容も掲載し、学校の魅力を発信する。② 発信の内容を見直し、発信回数を増やすとともに、保護者懇談会などで未登録者への呼びかけを随時行っていく。			
達成度	・役員会は第1回83%、第2回75%、第3 回63%の参加率であり、進路研修会の参加者は22名、挨拶運動は春・秋のべ38名で、昨年を上回った。 ・午前に実施された授業参観や施設見学には大勢の保護者が参加されたが、午後のPTA総会は76名(参加率13.1%)と昨年より減少の結果となった。			
具体的な 取組状況	・役員会の案内を早めに配布し、web にも掲載した。 ・全保護者対象の進路研修会の案内を安全メールでも呼びかけた。 ・会合の出欠票の提出が遅れている方には、連絡をし、全員の出欠票を回収した。 ・活動の様子をweb に掲載した。 ・活動の様子をweb に掲載した。 ・間のは、			
評 価	日本の都合をつけ、平日の行事に出席していただき、大変ありがたく感じている。役員会では、各委員会で活発な意見交換が行われた。また、今年度は滑高祭があり、PTA役員で模擬店を出店された。 日本ームページの更新方法を以前より簡単にしたこともあり、迅速な発信に努めることができている。リアル共有システムの登録については、保護者の認知が進んだこともあり、ほぼすべての保護者が登録している。			
学校評議員 の意見	・今年度は滑高祭があり、例年より役員同士が繋がり団結した年であった。自分の子供が通う学校がより良くなるよう、PTAへの積極的参加を期待したい。			
次年度へ向けての課題	・PTA活動の予定や活動内容・状況を会 ・生徒教員間のクラウドサービス利用度を高 員に知らせ、参加者が増加するよう努め			

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 現状より悪くなった)